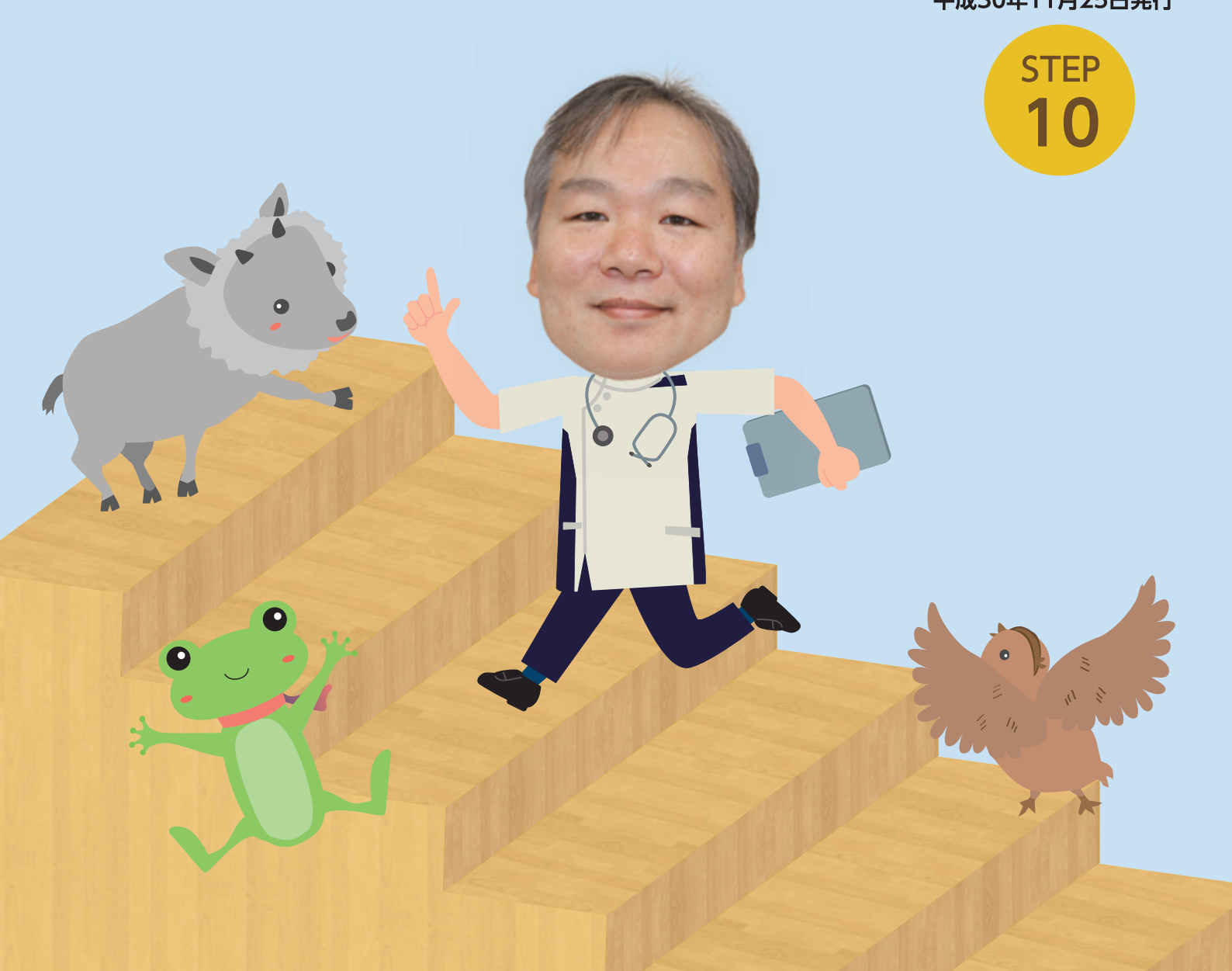


Step by Step

平成30年11月25日発行

STEP
10



《特集》

また運転を再開したい！～社会参加につながるリハビリテーション～

- わたしたちの思い～自動車運転班 作業療法士編～／自立訓練事業スタート！
- 病院からのお知らせ

ヒト



よしの おさむ

吉野 修 医師

プロフィール

1970年生まれ。富山医科薬科大学（現富山大学）卒業。富山医科薬科大学附属病院、富山労災病院、黒部市民病院などの勤務を経て、2010年から当院に勤務。日本リハビリテーション医学会専門医・指導医。同学会代議員、同学会地方会幹事。医学博士。



●未来の患者にもつながるリハビリテーション。

Q.先生は整形外科医からリハビリ科医に転向されましたが、そのきっかけは何ですか？

A.もともと整形外科医として、患者さんの機能障害や生活を診て、診療をしていたので、生活を診るというリハビリテーション科の考え方はベースにありました。私が大学附属病院に勤務していた時、20歳代の男性が交通事故で救急搬送されてきました。頸椎脱臼骨折による頸髄損傷の診断で、頸椎前方固定術を施行しましたが、完全四肢麻痺の状態でご当院に転院となりました。偶然にも、その数か月後、私も当院に赴任し、再び、彼を担当しました。転院時は、寝たきり状態でしたが、リハビリテーションにより、起居動作や移乗動作、日常生活動作がほぼ自立となりました。本人や家族の意向を確認しながら、自宅に訪問し、住宅改修などの助言も行い、自宅に退院されました。障害という視点から、その人の生活を支援するという医療があるのだと大きく感じ、リハビリテーション医学・医療の道に進んでいく一つのきっかけになりました。

Q.生活を支援するという点では、富山県は自動車の所有率が高く、運転は社会参加に重要なことの1つですが、当院ではどのような患者さんに、どのような運転再開支援をしていますか？

A.当院には、運転シミュレーターがあります。手足に運動麻痺のある患者さんが、左足アクセルペダル、片手操作ハンドルノブ、手動アクセル・ブレーキ装置などの運転補助装置を取り付けて、運転操作練習を行い、どのような条件であれば運転が可能となるかを確認することができます。また、脳卒中や頭部外傷などの脳障害の患者さんに対しては、自動車の運転に必要な身体機能や認知機能が保たれているかを神経心理学的検査や運転シミュレーターを用いて、包括的に評価しています。病院の運転評価基準に達した患者さんは、自動車教習所の実車走行評価を受け、さらに運転免許センターの臨時適性検査を受けていただき、運転再開となります。生活や就労のために自動車運転が必要な方が多いので、できるだけ運転再開の支援をしてあげたいという思いを持ちながらも、一方で、リスクドライバーを増やしてはいけないといった社会的責任も背負っているため、慎重に判断するようにしています。全国の多施設共同研究にも参加し、運転評価の基準を作成してきましたが、今後も、

その評価基準の妥当性を検証するための調査・研究を継続することが重要です。

Q.先生が大切にしていること、心がけていることは何ですか？

A.日々の診療では、患者さんがどんな生活を送りたいか希望をしっかり聞くということを大切にしています。その希望を踏まえて、多職種のチームとして目標を設定し、リハビリテーション医療を展開します。朝から晩までの1日、そして1週間、1か月をどのような生活がおくられるかを一緒に考えて、患者・家族の不安を少しでも減らし、退院の日を迎えられるようにしたいと思っています。また、目の前の患者さんを良くすることに力を尽くすことは当たり前ですが、当院としては、リハビリテーションに関するさまざまな調査・研究を通して、未来の患者さんのリハビリテーション医療にも役立てられる根拠を作っていくことも大事だと考えています。

＊

吉野先生はいろいろな大学や免許センターとも共同して運転に関する調査、研究をされてきました。難しい問題だけれども、誰が運転の評価をしても、一定の判断ができるようになったら、と思って研究を始められたそうです。今後の研究成果に期待したいですね☆



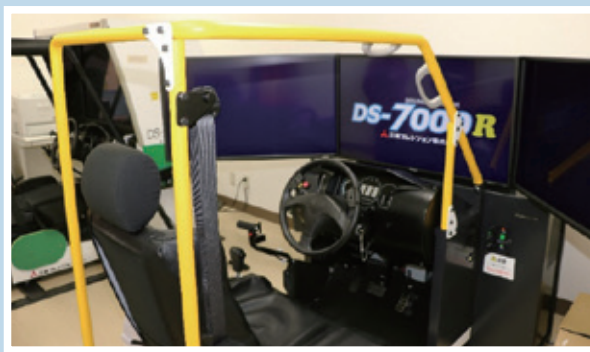
吉野先生の「リハビリ」科外来は、
月曜午前です。

※受診をご希望の方は、お電話等にてご相談ください。

運転できるか挑戦！ 運転シミュレーター！

当院の運転シミュレーターをご紹介します！

●全国的にも先駆けて導入した運転シミュレーター（DS-7000R）は、コンピュータグラフィックスと大画面で臨場感ある実車に近い運転環境が再現されます。自動車運転再開を希望する方（脳血管障害、整形外科疾患の患者さんなど）に、安全な運転再開が可能かどうか身体機能・認知機能を総合的に評価したり、運転練習に用いたりしています。



●実際の運転で起こり得る現象が再現されます。
公道、高速道路走行だけでなく、バイクの飛び出し、救急車両の出現なども設定されています。
また、地域特性画面というものがあり、北陸地方特有の気候である降雪場面もあります。



3画面になりリアルな運転場面の走行が可能に！運転に酔いやすい方などには1画面のシミュレーターもありますので、安心してご利用いただけます。

●どんな検査をしているの？

適性検査では、運転操作が正確に行えるかをチェックします。例として、下記があります。

- ①アクセル・ブレーキペダルの踏みかえ反応速度を確認します。
- ②指標に合わせたハンドル操作を確認します。
- ③指標に合わせたアクセルペダル踏力の調整を確認します。



右片麻痺や対麻痺に合わせ、アクセルの位置変更や、手動操作など改造車にも対応できるようになっています。

コト



運転再開支援の流れ

発症・受傷後に運転を再開するまでの支援の流れをご紹介します。

医学的評価

診察、CT・MRI 画像の検査

・当院の医師が、身体機能、視機能等を診察し、てんかんや低血糖等も含めた病歴の確認をします。

運転評価

神経心理学的評価、自動車運転シミュレーターの評価

・当院の作業療法科で、運転に関する注意・集中力、記憶力などの認知機能の評価と、運転シミュレーターを用いた評価を行います。

実車評価

運転研修センターなどの自動車教習所の実車走行評価

・運転研修センターなどの自動車教習所で、教習指導員が同乗し、実際に自動車を運転し、安全な運転操作が可能かを確認します。 ※実車評価は実費負担になります。

臨時適性検査

運転教育センターの臨時適性検査

・運転教育センターにて、医療機関で作成された診断書、運転シミュレーター評価等を元に、臨時適性検査が行われます。

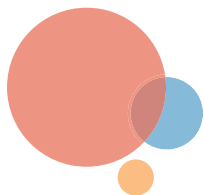
順番にクリアした後に…

運転再開！



なお、不合格になった場合に、期間をあけて再評価を実施することもあります。
主治医や療法士などに、ご相談ください。





わたしたちの思い ～自動車運転班 作業療法士編～



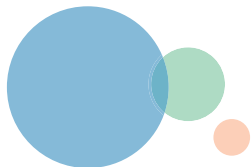
「運転できないと生活できない」という方は多いと思います。脳卒中など脳損傷後の患者さんからも「運転を再開したい」との訴えが多くきかれ、運転支援のニーズが高まってきています。

脳損傷後の方の場合、「方向がわからなくなる」「片側に見落としが多い」「会話しながらの運転が難しい」などのトラブルが起こりやすく、そうした状態は目に見えにくい障害とされています。運転とは、日常生活を支える作業ではありますが、交通事故加害者になった場合の責任を伴う作業でもあり、運転再開を希望される場合は、道路交通法により公安委員会（運転免許センター）に医師の診断書を提出することを求められるようになってきました。運転の可否判断は公安委員会が行いますが、作業療法士は運転適性に関する診断書を作成する医師の指示の下、対象となる方の心身機能や認知機能はもちろん、運転目的、環境等を把握し、ご自身やご家族が運転能力について理解できるように、そして運転を行う利益および不利益を十分に検討した上で、慎重に運転再開の判断を行えるように支援しています。

そのような中、作業療学科「自動車運転班」では、運転再開支援についての検討や研究、勉強会を積み重ねており、現在は、運転シミュレーターの活用に関する検討や、運転再開に必要な情報をまとめたパンフレット作り等を行っています。

今後は、誰もが地域でいきいきと活動し社会参加できることを目指し、運転あるいは代替手段も含めた移動に関する支援が幅広く行えるように、関係職種の方々と連携しながら研鑽を積んでいきたいと思っています。

佐々井 希



自立訓練事業スタート！ ～社会生活への復帰をお手伝いします～



当法人の高志ワークセンターでは、平成30年10月1日より、主に身体障害者や高次脳機能障害の診断を受けた方々を対象に、自立訓練事業を開始しました。

この事業は病院を退院した後、職場復帰や家庭での自立生活に備えて、引き続き訓練を希望する方々に、生活支援員や看護師、理学療法士、作業療法士らが個別のリハビリ訓練を行う障害福祉サービスです。調理や買い物、金銭管理などの日常生活訓練のほか、パソコン訓練、運動訓練など利用者の方と相談しながらメニューを作成し、それぞれの目標に向かって、自立した日常生活や社会生活を送ることができるよう支援を行います。利用期間は、3か月から1年程度が目安で、定員は20名です。利用料金は所得に応じて上限があります。

ご不明な点や見学を希望される方は、お気軽にお問合せください。



フラグ・タブ組立を行っている様子



パソコン訓練を受けている様子

● 病院からのお知らせ

*詳細は、ホームページまたは、総合受付横の案内板でご確認ください

12月

4日(火)	教室	糖尿病教室(病気の知識、食事の基本)
	サロン	ほのぼのぴあサロン (高次脳機能障害)
11日(火)	教室	糖尿病教室(食事の管理、歯の衛生)
18日(火)	教室	糖尿病教室(糖尿病の検査、薬の知識)
19日(水)	サロン	こども家族グループ(高次脳機能障害児)
	サロン	保護者サロン(発達障害・成人期)
25日(火)	教室	リハビリテーション家族教室 (脳卒中・健康生活編)
	講座	ほっぴ支援講座(発達障害・就労編)
	教室	糖尿病教室(健康管理の実践、運動療法)

※クリスマスバージョンのヒーリングコンサートも開催予定です。

1月

8日(火)	サロン	ほのぼのぴあサロン (高次脳機能障害)
	教室	糖尿病教室(病気の知識、食事の基本)
9日(水)	教室	リハビリテーション家族教室 (脳卒中・介護編)
15日(火)	教室	糖尿病教室(食事の管理、歯の衛生)
16日(水)	サロン	保護者サロン(発達障害・学齢期)
	サロン	こども家族グループ(高次脳機能障害児)
22日(火)	講座	ほっぴ支援講座(発達障害・就労編)
	教室	糖尿病教室(糖尿病の検査、薬の知識)
29日(火)	教室	糖尿病教室(健康管理の実践、運動療法)
	教室	リハビリテーション家族教室 (脳卒中・環境調整編)

県民公開講座「くらしの中でこどもの発達を支えよう」

平成30年12月8日(土) 14:00~16:00 サンシップとやま



● 外来診療案内 受付時間【午前】8:30~11:00【午後】13:00~15:00 診療時間 9:00~17:00

平成30年11月1日現在

診療科	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	○		○		○		○		○	
神経内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
整形外科	○	○	○		○		○		○	
リハビリテーション科	○		○		○		○		○	
泌尿器科					○	○	○	○		
精神科				○						○
脳神経外科				○				○		
皮膚科						○				
眼科										休診中
耳鼻咽喉科				○				○		
歯科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小児神経科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小児整形外科	○	○	○		○		○	第1・4	○	○
子どもの心(児童精神科)					○	○	第1・2・4	○	○	○

● 交通アクセス



■ あいの風とやま鉄道線東富山駅下車、東富山駅より徒歩バス
東富山駅より徒歩バス→リハビリセンター行乗車、終点下車

■ 北陸自動車道

金沢方面→富山西ICより国道8号線方面へ向かい、本郷西交差点右折、国道8号線新屋交差点左折
新潟方面→滑川ICより国道8号線方面へ向かい、稲泉交差点左折、国道8号線新屋交差点右折

■ 富山駅南口バスターミナルより徒歩バス(所要時間約30分) リハビリセンター行 乗車、終点下車

富山地方鉄道 路線バス時刻表

平成30年4月1日改正

平日(月~金曜日)ダイヤ

リハビリセンター行き
(下赤江・豊若町・済生会病院経由)

中央病院行き
(下赤江・富山駅前経由)

土曜・日曜・祝日(8月14日~16日)(12月30日~1月3日)ダイヤ

リハビリセンター行き
(下赤江・豊若町・済生会病院経由)

中央病院行き
(下赤江・富山駅前経由)

富山駅前	県リハビリセンター南口 (フークセンター前)	県リハビリセンター (新病院正面玄関前)	富山駅前	富山駅前	県リハビリセンター南口 (フークセンター前)	県リハビリセンター (新病院正面玄関前)	富山駅前
8:00	8:28	9:06	9:40	8:10	8:38	9:31	10:00
9:15	9:46	10:06	10:40	9:30	9:58	10:16	10:45
10:55	11:26	11:36	12:05	11:30	12:01	12:06	12:40
12:25	12:56	13:06	13:35	12:30	13:01	13:06	13:40
13:55	14:26	14:36	15:05	14:30	15:01	15:06	15:40
15:55	16:26	16:56	17:25	16:20	16:51	17:06	17:40
17:25	17:56	18:19	18:50				



病院の情報をもっと知りたい方は、ホームページにアクセスしてね!



【お問合せ先】

◆ 富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

〒931-8517 富山県富山市下飯野36番地 ☎(076)438-2233(代)

ホームページ <http://www.toyama-reha.or.jp>